

- **インターネット上の多言語サービス基盤を公開**
—言葉をつなぎ、世界をつなぎ、国際交流や多文化共生活動を支援—
“言語グリッドを用いた国際交流・多文化共生”シンポジウム開催のお知らせ
- **平成20年3月3日**

独立行政法人情報通信研究機構(以下「NICT」という。理事長:宮原秀夫)は、民・産・官・学で開発を行ってきたインターネット上の多言語サービス基盤ソフトウェア「言語グリッド(Language Grid)」を公開します。言語グリッドの特徴は、これまでの機械翻訳システムと違い、利用者が開発した辞書や対訳を登録でき、既存の機械翻訳などと組み合わせ、利用現場に応じた、より精度の高い翻訳プログラムの作成を可能にすることです。この特徴を用いて、教育、医療、防災などの利用現場で、世界中の言語の壁を崩す活動が始まろうとしています。NICTは、東京(3月17日)と京都(3月19日)でシンポジウムを開催し、言語グリッドが可能にする国際交流や多文化共生の新しい形をご紹介します。多くの皆様方のご来場をお待ちしております。

<背景>

平成18年3月、総務省は多文化共生推進プログラムを発表しました。機を同じくしてNICTは言語グリッドの開発に着手しました。こうした言語の壁を越える研究は、世界中で開発・蓄積された辞書、対訳、機械翻訳などを、インターネットを用いて連携させる段階に移行しています。NICTの言語グリッドプロジェクトは、民・産・官・学の連携協力体制を作り、システム設計の初期からNPOの参加も含めたユーザ参加型の開発を行ってきました。このため、僅か2年の開発期間で実用に耐え得るソフトウェアを完成させることができました。

<今回の成果>

今回公開する言語グリッドは、世界の言語資源(辞書、対訳、機械翻訳など)を登録し、共有可能なソフトウェアです。中国科学院・イタリア国立研究所・ドイツ人工知能研究所など世界30以上の組織に呼びかけ、言語資源の提供を得て構築しました。この言語グリッドの運営は、京都大学が中心となり、非営利利用を対象に開始しました(補足資料2)。こうした研究開発成果によって、これまでは実験することすら困難であった多言語サービスが、日本中の学校、病院、公的機関などで利用できるようになります。

今回のシンポジウムでは、言語グリッドが可能とする国際交流や多文化共生の新しい形を皆様にご紹介します。

<今後の展望>

平成20年は国際連合が定める「国際言語年」です。言語グリッドを用いて病院受付での日本語を母語としない患者の支援、外国につながる子ども達が増え始めている学校での多言語支援など、様々な異文化コラボレーション活動が大学やNPOで計画されています(補足資料3)。NICTはこうした活動への協力を通して言語グリッドを改良し、さらに高機能な言語サービスを開発するとともに、将来的には世界各国での教育、医療、防災の現場への応用など、日本のICT技術を用いた国際貢献を目指していきます。

< 広報 問い合わせ先 >

総合企画部 広報室

栗原 則幸

Tel:042-327-6923

Fax:042-327-7587

< 本件に関する 問い合わせ先 >

知識創成コミュニケーション研究センター

言語グリッドプロジェクト

灘本 明代

Tel:0774-98-6875

Fax:0774-98-6961

補足資料1

[言語グリッドを用いた国際交流・多文化共生シンポジウム]

■主催 独立行政法人 情報通信研究機構

■東京会場

日時: 3月17日(月) 13時30分～15時30分

場所: 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル コンファレンススクエア 8階 Room5

プログラム: 13:30-13:45(15分)

ご挨拶(NICT理事)

13:45-14:05(20分) 言語グリッドの概要

言語グリッドの公開と運営(NICT言語グリッドプロジェクト)

14:05-14:45(40分) 言語グリッドを利用した国際交流・多文化共生活動

医療受付での多言語支援(NPO 多文化共生センターきょうと)

日本語を母語としない生徒の学校での支援(川崎市立富士見中学校)

こどものユニバーサル・プレイグラウンド(NPO パンゲア)

セカンドライフで多言語チャット(和歌山大学)

14:45-15:00(15分)

質疑応答

15:00-15:30(30分) 言語グリッドのデモンストレーション

■京都会場

日時: 3月19日(水)13時30分～15時40分

場所: キャンパスプラザ京都(JR京都駅ビル駐車場西側) 4階 第4講義室

プログラム: 13:30-13:45(15分)

ご挨拶(NICT知識創成コミュニケーション研究センター長)

13:45-14:05(20分) 言語グリッドの概要

言語グリッドの公開と運営(NICT言語グリッドプロジェクト)

14:05-14:55(50分) 言語グリッドを利用した国際交流・多文化共生活動

医療受付での多言語支援(NPO 多文化共生センターきょうと)

日本語を母語としない生徒の学校での支援(立命館大学)

世界の子どものための防災協働学習における言語グリッドの利用(NPO JEARN)

こどものユニバーサル・プレイグラウンド(NPO パンゲア)

セカンドライフで多言語チャット(和歌山大学)

14:55-15:10(15分)

質疑応答

15:10-15:40(30分) 言語グリッドのデモンストレーション

■参加申込方法(東京・京都会場共通):

氏名・所属・メールアドレス・参加会場(東京又は京都)・住所・電話番号・FAX番号を明記の上、下記までお申し込みください(参加費無料)。

担当:角川栄里 TEL: 0774-98-6865 FAX: 0774-98-6967

※会場の都合により、お申し込みを受付できない場合がございます。何卒ご了承ください。

補足資料2

[言語グリッドの非営利運営]

京都大学情報学研究科社会情報学専攻が、非営利利用を対象に言語グリッドの運営を始めています。現在、以下を含む30を超える組織が参加しています。

国外:中国科学院、イタリア国立研究所、ドイツ人工知能研究所、シュツットガルト大学、韓国 UNESCO MIZYセンター、清華大学など。

国内:NII(国立情報学研究所)、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、川崎市教育委員会、アジア防災センター、大学、NPOなど。



参加組織は、提供した言語資源のプロファイルに著作権情報やライセンス情報を指定することができます。また、提供した言語資源へのアクセスを制御できます。また、提供された言語資源を自由に利用することができます。

現在、利用できる言語資源には機械翻訳(日本語、中国語、韓国語、英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語)や辞書(生命科学、防災、学術全般、概念辞書)などがあります。

[言語グリッドを用いた異文化コラボレーション活動]

■医療受付での多言語支援:NPO多文化共生センターきょうと

例えば外国人観光客が病気になった場合、医師に症状を的確に伝えられないために、医療通訳ボランティアが診察に同行し、患者の支援を行っています。しかし、24時間対応や緊急時対応ができないなど、様々な問題を抱えています。そこで、言語グリッドを用いて、病院の受付で来院した日本語を母語としない患者の受診手続きを支援しています。多言語医療受付支援システム(名称:M3)と医療用例対訳収集システムを利用することで、精度の高い多言語コミュニケーションを実現しています。



■世界の子どものためのユニバーサル・プレイグラウンド:NPO パンゲア

言語と時間・空間の障壁を乗り越えて世界中の子供たちがつながりを築くための『ユニバーサル・プレイグラウンド』を創ることを目指しています。世界各国の拠点間のスタッフの意思疎通や、Webカメラを用いた同期アクティビティの準備・実施などに言語グリッドを利用しています。



■日本語を母語としない生徒の学校での支援:川崎市立富士見中学校

富士見中学校には多くの日本語を母語としない生徒が在学しているため、それらの生徒向けの日本語教室を開講しています。その日本語教室で、言語グリッドを用いたチャットシステムを使用しています。



■防災教育への機械翻訳の利用:NPO JEARN

ジェイアーン(JEARN)は世界最大の国際教育ネットワークであるアイアーン(iEARN)の日本センターです。「防災世界子ども会議」では、参加国の学校がインターネットテレビ会議や英語掲示板で意見交換をしながら、「グローバル災害安全マップを作ろう!」をテーマに取り組みました。言語グリッドは、日本や台湾、セネガルの子どもたちなど、英語が苦手な教員・生徒がメッセージを書き込むのを助けています。



■セカンドライフで多言語チャット:和歌山大学

仮想空間サービスであるセカンドライフ内に、椅子に座るだけで多言語翻訳チャットを利用できる「言語バリアフリールーム」を構築しました。機械翻訳機能と京都観光辞書を、言語グリッドを介して組み合わせることにより、京都の名所旧跡の名称の精度の高い翻訳を実現しています。

